令和５年度　宮崎県立宮崎東高等学校　学校評価

教育目標	自ら求めて学び、すすんで社会に貢献する、人間性豊かな生徒の育成をめざす	学校関係者評価のポイント
経営方針	豊かな人間性を有し、心身ともに健康で自信と誇りを持って社会生活を送り、地域社会に貢献できる生徒を育てる。 （１）多様な学びの場の提供 （２）将来を展望した在り方・生き方の確立 （３）基礎学力の定着と授業力の向上	・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等を基にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。
本年度の重点目標	(1)責任を果たす学校 (2)個性の溢れる学校 (3)信頼される学校 (4)開かれた学校 (5)元気のでる学校	※　自己評価、学校関係者評価とも、Ａ～Ｄの４段階評価とする。

重点目標	評価項目	具体的指標	成果と課題・改善策	自己評価	学校関係者評価	評価・具体的意見
(1)責任を果たす学校	①知・徳・体の力を確実に修得させる。	○基礎学力テストの実施 ○単位修得率の向上 夜間部　８５%以上 昼間部　８５%以上 通信制　６５%以上	**【夜間部】**授業に出席することの大切さを生徒に伝え、 生徒の欠課時数が減少したことも単位修得率向上につながったと思われる。通信併修の単位修得率を向上させることが課題である。 **【昼間部】**総合的な探究の時間（後期からは学校設定科目「ベーシック」）において学び直しの取組を行った。 【単位修得率】 夜間部：96．0%（昨年より7ポイントアップ） 昼間部：89．2% 通信制：56．7%	B	B	・単位修得は学年があがるにつれ修得率も上がり学習の定着がみえる。進路目標達成について昼間部の決定率があがり指導の成果がみえる。夜間部、通信制についても今後工夫して意識変革を行ってほしい。 ・単位修得率の向上（特に夜間部と昼間部）が年々向上していることは、生徒個々に応じた指導や学力の到達度把握、学習内容の精選など、先生方の共通理解と共通実践等に裏打ちされた成果である。高く評価したい。 ・基礎学力テストの実施については、具体的な取組と達成状況（成果と課題）が知りたい。 ※学力差と学習意欲の差が大きく、基礎学力の低い生徒も散見されると思うが、学期末や年　度末に生徒の学校満足度調査等を実施されているのでしょうか？ ・進路目標達成率の向上については、今後ともキャリア教育の充実・推進のためにインターンシップ２課程２部合同による校内企業説明会等を実施し、生徒の夢実現・進路実現・自己実現のために尽力して頂きたい。 ・生徒と直接対話でき、指導できる夜間部と昼間部においては先生方の指導の努力が単位修得率と進路目標達成結果に現れている。一方、通信制においては、生徒の置かれている状況などから考えると、先生方が大きな努力を払われているにもかかわらず、数値だけでは学校の責任が果たさせているかを測ることは難しいと思います。通信制においては、別の視点からの評価はないものかと考えます。進路先は拡大されおり指導の成果だと感じます。
	②進路目標を達成させる。	○進路目標の達成 夜間部　９０% 昼間部　９０% 通信制　３０%	多様な価値観を持った生徒達であり、高校卒業を大きな節目とは捉えていないようにも映る。生徒の主体性を尊重しつつ、生徒の人生に気付きを与えられる進路指導を行っていきたい。 【進路目標達成率】 夜間部：50．0% 昼間部：76．1% 通信制：26．6%			
(2)個性の溢れる学校	①一人ひとりのよさを認める。 ②個性を伸長し、自己肯定感を高める。	○学校生活アンケートの実施 ○部活動の活性化 ○学校行事参加率の向上 夜間部　文９５%、体９０% 昼間部　文９０%、体８５% 通信制　文１５%、体２０% ○教育相談体制の充実（通級含む）	**【学校行事参加率】** 夜間部：文97.1%　体97.1% 昼間部：文95.4%　体92.7%　修学旅行（熊本）17名 通信制：文19.4%　体11.2%　修学旅行（沖縄）37名 **【夜間部】** ・いじめやスマホに関するアンケート、授業アンケート等を実施した。 ・部活動は年間を通じて活動が行われている。 ・全員面談（5、6月）やリクエスト面談（11、12月）を全生徒を対象に面談を行った **【昼間部】** ・独自のアンケートを6月・11月に実施。いじめ等の問題を未然に防ぐことが出来た。 ・昼間部は県定通体育大会において、男子バスケットボール部が2年連続優勝、卓球個人も3位入賞の成績であった。また、百人一首と軽音楽が、同好会から部へ昇格した。 ・生徒生活体験発表大会において、昼間部生徒が県代表に選ばれた。 ・教育相談担当が中心に、ハートサポーターと連携して生徒情報を収集、整理し担任をはじめ関係職員と共有し具体的な手立てをおこなった。さらに、スクールカウンセラーのアドバイスを積極的に求め、効果的な対応ができた。 ・通級は5年目に突入し、計画的な指導が定着しつつある。他校との研修もはじまり充実している。 ・昼間部のSWPBS（学校全体の積極的な行動支援）は4年目に入り、各校務分掌での目標や考え方も浸透してきた。特に進路指導部の東OOP検定など生徒の取組も定着している。 **【通信】** ・学校行事（生徒会行事）の運営及び参加が向上している。 ・3・4月及び8・9月にいじめ等に関するアンケートを行った。 ・セクハラに関するアンケートは7月にGoogle Formで行った。 ・サポステ訪問相談を月スク日にも追加設定してもらった。来年度はオンラインサポステ相談を設定する。	A	A	・お互いに個性をみとめあうための知識や意識について、アンケートやリクエスト面談などが活かされているようにみえる。同好会から部活への昇格や通級の充実、通信制生徒の学校行事参加が増えるなど、生徒の参加が安定して増加してきていることから、非常に個性を尊重している様子がうかがえる。 ・自己肯定感の向上や生徒理解のために、面談や各種アンケート等の実施、ハートサポーターやスクールカウンセラー、専門機関との連携等に組織的・精力的な取組がなされており、高く評価できる。 ・今後とも、信頼関係構築のために、生徒と真剣に向き合い生徒一人一人の良さを認めることで、個性の伸長や自信と誇りに繋げて頂きたい。先生方のご苦労・ご尽力に心より感謝します。 ・通信制の学校行事参加率（文化祭、体育大会）の向上を期待したい。 通信制において、サポステの活用が継続されていることは開かれた学校にも繋がる。来年度オンラインサポステ相談の活用度が高まることを期待します。学校での相談は勿論ですが、地域でサポートとしてもらえる事を生徒が体験できる良い機会となると思います。更に他の課程にも広がると良いのではないかと思います。
(3)信頼される学校	①服務規律の遵守に努める。	○全職員に対する面談等の実施と各種取り組み コンプライアンスに係る報告・相談 コンプライアンスチェックシートの活用	・コンプライアンスチェックシートによる点検では、職員の取組状況は良好だった。コンプライアンス関係の校内研修を2回実施した。 ・全職員を対象としたコンプライアンス研修以外にも、各課程で適宜、コンプライアンス研修を実施した。 ・コンプライアンスチェックシートを活用して実態を知る機会、また、職員の意識を高めるきっかけとした。 ・職員研修は、生徒理解研修、人権に関する研修、保健衛生に関する研修などを行った。 ・生徒を対象とした防災訓練やAED講習会を行った。有事の際に的確な判断と行動がとれるようにしていきたい。 ・危機管理マニュアルや学校安全計画などは、２課程２部合同の安全教育推進委員会にて見直しを進めている。 ・地震・津波や火災を想定した避難経路の確認などの防災訓練を実施した。 ・２課程２部合同の感染症対策委員会を実施し、感染症罹患報告書等についての共通理解を図った。 ・ICT活用を目的とした授業公開やミニ研修会を実施して職員の意識の高揚に努めた。 **【通信制】** ・Google Classroomの活用が定着し、担任からの丁寧な情報発信が見られる。 ・タブレット端末を使った面接指導が増えた。 ・協力校のWifi回線活用が認められた。今後、ICT活用による協力校Sが見込まれる。 ・デジタル採点システム「百問繚乱」の研究が進んでいる。 ・学習状況支援システム「School DB」についての校内DX委員会で研究中である。 ・多様な生徒への対応については教育DXとともに進めたい。ICTの活用による各種リモート相談、レポート解説動画、学習状況・進度の指導・支援などにつなげたい。 ※外国籍の生徒が在籍しているが、日本語指導などを含めた特別な教育課程を設定し本人のペースで学習できるように配慮している。また、エリア生活サポーターも配置され授業だけでなく、HRなどあらゆる場面においてサポートができる体制をつくっている。	A	A	職員研修の取り組みとICT活用の幅広さに安心した。社会の変化とともに学内が変化することが望ましく、非常に多角的な取り組みに感心した。 ・多様な生徒を受け入れる学校として生徒や保護者、地域の期待や信頼に応える学校づくりに、今後とも努めて頂きたい。 ・教育公務員としての自覚を持ち、県民の期待を裏切ることがないよう服務規律の順守に向けた取組を日々の職員朝礼や職員研修等で意図的・計画的に行っている。大いに評価できる。 ・グーグルクラスルームの活用やタブレット端末を活用した面接指導等、DX（ICT教育）推進に学校一丸となった取組が見られる。今後とも尚一層の推進をお願いしたい。 ・通信制におけるタブレット端末を利用した生徒への様々なアプローチが、生徒と教師間の距離を縮め、指導効果も発揮できるものと期待します。それは「責任を果たす学校」における通信制の評価に繋がるものだと思います。
	②危機管理意識を向上させる。	○各種職員研修等の取り組み 危機管理マニュアルの見直し 防災訓練・AED研修等の実施 感染症対策・情報セキュリティ ○ICT活用による学びの補償 リモート授業や講演等の充実				
(4)開かれた学校	①地域や保護者の期待に応える。	○指導力向上の取組 研究授業・教員相互の授業公開の実施 生徒による授業評価や振り返り 保護者への授業公開の実施 ○積極的な情報発信	・学校評価についてHPで公開した。 **【夜間部】** 職員相互の授業公開を7月に実施した。人文社会学系と自然科学系に分かれて授業参観と協議を行った。ICT活用のきっかけにしたい。 ・保護者への授業公開は前後期に各１回実施した。 ・総合的な探究の時間については、9月に授業公開、1月に成果発表会を教育関係者等に公開した。また、3月には、青森県、岩手県、福岡県の県立学校3校と本校をオンラインで繋いで実施する過程重視探究発表会も一部公開する。 ・情報発信の面では、総合的な探究の時間に関連した記事が、宮崎日日新聞に今年度3回掲載された。夜間部の特色のひとつである総合的な探究の時間での取組が、保護者や地域の方々に広く理解いただけるようにしていきたい。 ・11月からは校内カフェを月2回のペースで行っており、生徒が安心できる場、交流の場を創り出している。 **【昼間部】** ・教員相互の授業公開と保護者への授業公開を重ねて同時に7月に実施した。 ・学校HPの昼間部ブログに行事の度に画像をアップすることで情報の発信に努めた。 ・昨年から「通級による指導」の授業公開を実施している。校外から多くの希望者が見学、研修会として協議、講師招聘など充実した研修となっている。 **【通信制】** ・「観点別評価」について教務内規を改訂し、令和6年度のレポート課題に反映させた。令和6年度から本格導入。	A	A	・保護者、他校、一般に対して情報公開するには準備と継続が必要となるので、その実施に対して高く評価したい。県内他校の目標となる学校になるのみならず、生徒が自主的に東高校を目指す理由となるためには、外部との交流が必須であり今後も大きく成長できる要素だと思う。 ・生徒や保護者、地域の期待に的確に応えるために、今後とも学校全体の指導力向上や教育の質の向上・保証に努めて頂きたい。 ・学校評価についてHPで公開されたことは評価できる。 ※公開した時期はいつ頃でしたか？ ・昨年度は検討事項だった「学校評価の公表」がHPでなされたことは大きな成果だったっと思います。また、他地域の学校との様々な取り組みが活発に行われている事は「元気の出る学校」にも繋がり、更には、学校の重点目標感に良い循環が生じるものと評価します。 ・特殊性のある学校として、保護者や、卒業生組織との連携やできる範囲での情報共有が今後の変化となるのではないかと思う。学校、保護者、各組織の隔たりを感じる。
	②評価結果の公表により、説明責任を果たす。	○学校評価の実施と活用 評価内容の公表と連携				
(5)元気のでる学校	①連携を密にし、「活力あふれる」職場環境を構築する。	○校務分掌を中心とした組織的な体制づくりの推進 （報告・相談等） ○福利厚生事業の充実	・講師対象の研修など各種研修を紹介する機会も増え、リモートだけでなく、対面での研修も回復してきたこともあり充実していた。 ・管理職への相談や報告は細やかで迅速であり、初期対応から組織的に当たることができている。 ・職員の人数も少なく、物理的な距離感の近さもあって職員間の連携が密で、組織的な対応がとりやすい。	B	B	・外部からは見えにくい部分であるが、訪問時の教職員の皆様の応対は丁寧で安心感があり環境が安定していることをうかがうことができる。 ・管理職間や職員間の報・連・相体制も充実しており、組織的な対応もなされているようである。高く評価できる。 ・様々な研修を通して生徒への的確な支援を行うとともに職員の資質向上や能力開発に努めながら、風通しの良い活力溢れる職場環境の充実に、尚一層努めて頂きたい。
	②各種研修等により、資質の向上に努める。	○各種研修会への参加 県教育研修センター等主催研修				